

— 令和 5 年度 —

高知県公立高等学校入学者選抜における
学力検査の結果分析

令和 5 年 6 月

高 知 県 教 育 委 員 会

目 次

令和5年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ	1
I 令和5年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要	2
II 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の実施結果	6
1 学力検査出題の方針	
2 学力検査結果の全体的な状況	
III 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の教科別状況	10
国語	10～11
社会	12～13
数学	14～16
理科	17～19
英語	20～21

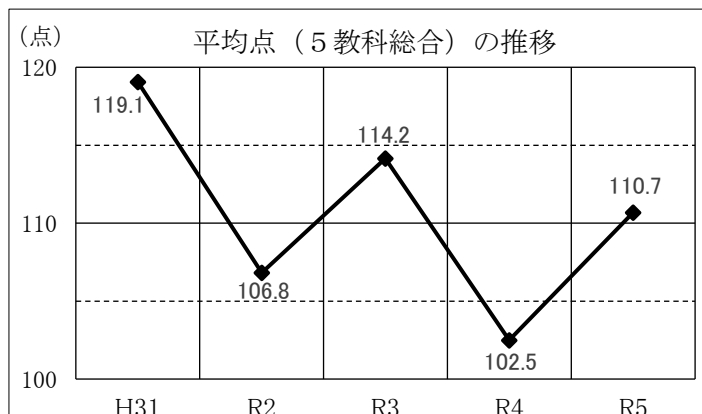
令和5年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ

(A日程及び連携型中高一貫教育校に係る特別選抜)

【Ⅰ】入学者選抜の概要

	受検者数	合格率
平成31年度	4,010名	93.0%
令和2年度	3,836名	92.4%
令和3年度	3,632名	92.4%
令和4年度	3,696名	91.1%
令和5年度	3,543名	93.0%

【Ⅱ】学力検査の実施結果



【Ⅲ】学力検査の教科別状況

結果の分析	
総合	5教科総合の平均点は110.7点で、昨年度より8.2点上がった。200点以上の受検者数は3倍近くに増加し、74点以下の受検者数は四分の三に減少した。思考力・判断力・表現力のベースとなる知識・技能については、各教科とも一定定着しているが、思考・判断・表現する場面において、習得した知識や技能を十分に活用することができておらず、事象や概念を説明したり、与えられた条件に沿って自分の意見や考えを表現したりする力をみる問題では、正答率が低い。
国語	平均点は21.3点で、昨年度より1.1点下がった。漢字の書きや情報の取り出しについては一定の力が認められるが、漢字の読みや文法の基礎的事項の習熟が十分とは言えない。また、一定の分量の文章を展開に即して内容を整理しながら正確に読み取り、条件に合わせて適切に書き表すことに課題がある。
社会	平均点は25.1点で、昨年度より1.7点上がった。基本的事項については、地理的分野では一定の定着がうかがえるが、公民的分野や歴史的分野では十分とは言えない。特に、歴史的分野では、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて捉える力や、歴史的事象のつながりを捉える力に課題がある。また、全分野を通して、資料を活用して思考・判断・表現する力に課題がある。
数学	平均点は19.2点で、昨年度より3.0点上がった。基礎的・基本的事項については一定の力が付いていると思われるが、問題文を理解して、文字を用いて立式することや、文字を用いた式の変形や処理をする力は十分とは言えない。また、「図形」、「関数」の領域において、知識・技能を活用する問題や、思考・判断・表現する力を問う問題に課題がある。
理科	平均点は20.5点で、昨年度より0.6点上がった。第1分野においては、基礎・基本的な科学用語の理解及び観察・実験の技能の習得に一定の定着がうかがえるが、第2分野については十分とは言えない事項がある。また、探究活動の流れに沿って科学的検証方法を立案したり、根拠をもって実験結果を予想したり、実験結果を解釈・表現したりする力には、両分野ともに弱さが見られる。
英語	平均点は24.6点で、昨年度より4.0点上がった。まとまりのある文章の概要や要点を捉える力は概ね身に付いている。文法事項の定着に偏りがみられ、聞いたり読んだりした身近な話題や社会的な問題に対して自分の考えを英語で書く問題では、自分の考えを伝えようとしているものの、正確に表現することができておらず、基本的な文法事項の定着に課題がみられる。

【Ⅳ】今後の学習指導の重点項目

各教科で基礎的・基本的な知識・技能の習得を一層図るとともに、課題を発見し解決する探究的な学習活動を通して、教科横断的に知識・技能を活用し思考・判断・表現する力を育む。

I 令和5年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要

1 全体

	入学定員	合格者総数
全 日 制	5,090	3,577
多 部 制	200	75
定 時 制	560	47
合 計	5,850	3,699

(併設中学校からの進学者を含む。)

○定員充足率 (%)		前年比 (ポイント)
全日制の課程	70.3	-1.9
多部制の課程	37.5	-10.5
定時制の課程	8.4	+0.4

2 (1)A日程

	A日程定員	受検者数	合格者数
全 日 制	5,090	3,406	3,172
多 部 制	120	66	53
合 計	5,210	3,472	3,225

○合格率 (%)		前年比 (ポイント)	○不合格者数 (人)		前年比 (人)
全日制の課程	93.1	+2.1	全日制の課程	234	-81
多部制の課程	80.3	-4.8	多部制の課程	13	0

(2)連携型特別選抜

	受検者数	合格者数
全 日 制	71	71

※連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の募集定員は、入学定員内とし、特に定めない。

3 B日程

	B日程定員	受検者数	合格者数
全 日 制	1,657	173	145
多 部 制	147	25	19
定 時 制	560	39	33
合 計	2,364	237	197

○合格率 (%)		前年比 (ポイント)	○不合格者数 (人)		前年比 (人)
全日制の課程	83.8	-2.1	全日制の課程	28	0
多部制の課程	76.0	+6.0	多部制の課程	6	-3
定時制の課程	84.6	-6.8	定時制の課程	6	+3

4 C日程

	C日程定員	受検者数	合格者数
多 部 制	67	5	3
定 時 制	527	16	14
合 計	594	21	17

5 定員内不合格

	定員内不合格者数		
	A日程	連携型特別選抜	B日程
令和5年度	80	0	41

令和5年度 高知県公立高等学校入学者選抜合格者等の状況（学校別）

No. 1 全日制

学校名	学科(科)名	入 学 定 員	A日程			B日程			合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数	
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数				合 格 者 数
室戸	総合	80	52	52	49	31	1	1	0	49	31	49
安芸	普通	120 (81)	54	54	54	27	2	2	2	95	25	95
	工業(機土) [機械]	20 (18)	5	5	4	14	0	0	0	6	14	6
	工業 [土木]	20 (18)	3	3	2	16	0	0	0	4	16	4
	商業(ビジネス)	40 (32)	14	14	13	19	0	0	0	20	20	20
城山	普通	80	22	22	19	61	8	8	6	25	55	25
山田	普通	80	64	64	59	21	2	2	2	61	19	61
	探究(グローバル)	80	7	6	7	74	2	2	2	9	71	9
	商業(ビ探)	40	21	21	24	16	3	3	3	27	13	27
嶺北	普通	80	10	10	10	53	0	0	0	27	53	27
高知農業	農業(農総)	40	40	40	38	2	0	0	0	38	2	38
	農業(畜総)	40	29	29	29	11	0	0	0	29	11	29
	農業(森総)	40	15	15	14	26	1	1	0	14	26	14
	農業(環土)	40	19	19	19	21	0	0	0	19	21	19
	農業(食ビ)	40	42	42	40	なし				40	0	40
	農業(生総)	40	38	37	36	4	2	2	2	38	2	38
高知東工業	工業(機械)	40	38	38	38	2	1	1	1	39	1	39
	工業(機械シ)	40	10	10	10	30	2	2	2	12	28	12
	工業(電子)	40	16	16	16	24	2	2	2	18	22	18
	工業(電機)	40	17	17	17	23	3	3	3	20	20	20
岡豊	普通	240	187	186	184	56	35	35	35	219	21	219
	普通(芸術コース)	40	23	23	22	18	3	3	2	24	16	24
	普通(体育コース)	40	37	37	32	8	1	1	0	32	8	32
高知東	総合	200	210	208	200	なし				200	0	200
	看護(看護)	30	33	33	30	なし				30	0	30
高知工業	工業(機械)	40	37	35	37	3	1	1	1	38	2	38
	工業(電気)	40	44	44	40	なし				40	0	40
	工業(情技)	40	39	37	36	4	0	0	0	36	4	36
	工業(工化)	40	32	32	38	2	2	2	2	40	0	40
	工業(土木)	40	40	40	40	なし				40	0	40
	工業(建築)	40	55	52	40	なし				40	0	40
	工業(総デ)	40	53	52	40	なし				40	0	40
高知追手前	普通	280	235	234	234	46	1	1	1	235	45	234
吾北	普通	40	10	9	9	31	2	2	2	11	29	11
高知丸の内	普通	140	190	189	140	なし				140	0	140
	チャレンジA	10	8	8	7					7	3	7
	音楽(音楽)	30	12	12	12	18	0	0	0	12	18	12
高知小津	普通	240	227	222	222	19	9	8	6	228	12	228
	理数(理数)	40	28	26	25	15	0	0	0	25	15	25
高知国際	普通	200 (152)	195	194	152	なし				200	0	200
	国際(グローバル) [探究]	80 (26)	15	15	21	5	0	0	0	75	5	75
	D P	[20] (若干名)	[3]	[3]	[1]	[若干名]	[0]	[0]	[0]	[1]		
伊野商業	商業(キャリア)	160	105	104	92	68	23	23	16	108	52	108
春野	総合	160	120	118	113	47	22	22	19	132	28	132
高岡	普通	80	25	24	20	60	4	4	3	23	57	23
高知海洋	水産(海洋)	80	28	28	27	53	4	4	3	30	50	30
	船舶職員養成課程	[10]	[2]	[2]	[2]	[8]	[0]	[0]	[0]	[2]	[8]	[2]
須崎総合	普通	120	67	66	65	55	10	10	9	74	46	74
	工業(機械系) [機械]	20	20	20	20	なし				20	0	20
	工業 [造船]	20	5	5	5	15	1	1	1	6	14	6
	工業(電情系) [電気]	20	3	3	3	17	0	0	0	3	17	3
	工業 [電情]	20	5	5	5	15	0	0	0	5	15	5
	工業(シ工系) [機制]	20	10	10	9	11	1	1	1	10	10	10
	工業 [住環]	20	6	6	5	15	1	1	1	6	14	6
佐川	普通	80	29	29	29	51	8	8	6	35	45	35
窪川	普通	80	23	23	22	58	1	1	0	22	58	22
構原	普通	80	22	22	18	40	5	5	2	42	38	42
四万十	普通	40	5	4	4	29	0	0	0	11	29	11
	普通(自環コース)	40	8	8	8	26	0	0	0	14	26	14

- (注1) 安芸、高知国際、中村の()内の数字は、A日程の募集定員を示したものである。
(注2) 高知国際高校D Pコース、高知海洋高校船舶職員養成課程の[]は内数。
(注3) 嶺北、構原、四万十、清水の合格者総数には、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。
(注4) 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。
(注5) A日程合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む。

No. 2 全日制

学校名	学科(科)名	入学定員	A日程			B日程			合格者総数	空定員	入学許可者数	
			志願者数	受検者数	合格者数	B日程定員	志願者数	受検者数				合格者数
大方	普通	80	33	32	30	50	7	6	6	36	44	36
幡多農業	農業(園シス)	40	19	19	18	22	0	0	0	18	22	18
	農業(アグリ)	40	17	17	15	25	0	0	0	15	25	15
	農業(グリーン)	40	16	16	15	25	0	0	0	15	25	15
	農業(コーディネート)	40	22	22	22	18	0	0	0	22	18	22
中村 西土佐	普通	200 (164)	133	132	130	34	1	1	1	167	33	167
	普通	40	9	9	8	32	1	1	0	8	32	8
宿毛工業	工業(機械) 機械	20	7	7	7	13	0	0	0	7	13	7
	工業(機械) 自転車	20	13	13	13	7	0	0	0	13	7	13
	工業(建設) 土木	20	21	20	20	なし				20	0	20
	工業(建設) 建築	20	15	15	15	5	0	0	0	15	5	15
	工業(電気)	40	6	6	6	34	0	0	0	6	34	6
	工業(情技)	40	27	27	27	13	0	0	0	27	13	27
宿毛	総合	120	63	63	61	59	1	1	1	62	58	62
清水	普通	80	1	1	1	60	2	2	2	22	58	22
県立計		4810 (4621)	3109	3076	2892	1657	175	173	145	3296	1514	3295

高知商業	商業(総合)	140	173	171	140	なし				140	0	140
	商業(社会)	70	83	83	70	なし				70	0	70
	商業(情報)	35	40	39	35	なし				35	0	35
	商業(スポ)	35	37	37	35	なし				35	0	35
市立計		280	333	330	280	0	0	0	0	280	0	280

合計		5090 (4901)	3442	3406	3172	1657	175	173	145	3576	1514	3575
----	--	-------------	------	------	------	------	-----	-----	-----	------	------	------

(注1) 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。

(注2) A日程合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む。

令和5年度 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者等の状況(学校別)

学校名	学科(科)名	入学定員	特別選抜			
			特別選抜定員	志願者数	受検者数	合格者数
嶺北	普通	80	入学定員内	17	17	17
構原	普通	80	入学定員内	22	22	22
四万十	普通	40	入学定員内	7	7	7
	普通(自環コース)	40	入学定員内	6	6	6
清水	普通	80	入学定員内	19	19	19
合計		320		71	71	71

令和5年度 高知県公立高等学校入学者選抜合格者等の状況（学校別）

多部制単位制

学校名	学科名	入学定員 [成人]	A日程			B日程			C日程			合格者総数	空席	入学許可者数 [成人]		
			志願者数	受検者数	合格者数	B日程定員 [成人]	志願者数 [成人]	受検者数 [成人]	合格者数 [成人]	C日程定員 [成人]	志願者数				受検者数	合格者数
中芸	普通(昼間)	40	10	10	8	32	3	3	1				9	31	9	
	普通(夜間)	40 [4]				40 [4]	5 [0]	5 [0]	4 [0]	36	4	4	2	6	34	6 [0]
高知北	普通(昼間)	80	59	56	45	35	6	6	5				50	30	50	
	普通(夜間)	40 [4]				40 [4]	13 [1]	11 [0]	9 [0]	31	1	1	1	10	30	10 [0]
合計		200 [8]	69	66	53	147 [8]	27 [1]	25 [0]	19 [0]	67	5	5	3	75	125	75 [0]

(注1) 成人の [] は内数

定時制

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	A日程			B日程			C日程			合格者総数	空席	入学許可者数 [成人]		
			志願者数	受検者数	合格者数	B日程定員 [成人]	志願者数 [成人]	受検者数 [成人]	合格者数 [成人]	C日程定員 [成人]	志願者数				受検者数	合格者数
室戸	普通	40 [4]				40 [4]	3 [0]	3 [0]	3 [0]	37	0	0	0	3	37	3 [0]
山田	普通	40 [4]				40 [4]	4 [0]	4 [0]	4 [0]	36	0	0	0	4	36	4 [0]
高知東工業	工業(機械)	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	1	1	1	2	38	2 [0]
高知工業	工業(機械)	40 [20]				40 [20]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]
	工業(電気)	40 [20]				40 [20]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	2	2	1	2	38	2 [0]
	工業(土木)	40 [20]				40 [20]	6 [0]	5 [0]	3 [0]	37	1	1	1	4	36	4 [0]
	工業(建築)	40 [20]				40 [20]	2 [1]	2 [1]	1 [1]	39	0	0	0	1	39	1 [1]
高岡	普通	40 [8]				40 [8]	3 [0]	3 [0]	2 [0]	38	3	3	3	5	35	5 [0]
須崎総合	普通	40 [4]				40 [4]	5 [0]	5 [0]	3 [0]	37	2	2	2	5	35	5 [0]
佐川	普通	40 [8]				40 [8]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	2	2	2	4	36	4 [0]
大方	普通	40 [4]				40 [4]	3 [0]	3 [0]	3 [0]	37	0	0	0	3	37	3 [0]
宿毛	普通	40 [4]				40 [4]	4 [0]	4 [0]	4 [0]	36	0	0	0	4	36	4 [0]
清水	普通	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]
合計		520 [124]				520 [124]	36 [1]	35 [1]	29 [1]	491	11	11	10	39	481	39 [1]
高知商業	商業(商業)	40 [4]				40 [4]	4 [0]	4 [0]	4 [0]	36	5	5	4	8	32	7 [0]
合計		560 [128]				560 [128]	40 [1]	39 [1]	33 [1]	527	16	16	14	47	513	46 [1]

(注1) 成人の [] は内数

Ⅱ 学力検査(A日程及び連携型特別選抜)の実施結果

1 学力検査出題の方針

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）にそって、基礎的・基本的な知識・技能の定着と、学習や実生活の場面において、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の力をみるものとした。

- 1 中学校における日常の学習活動に基づく内容とした。
- 2 各教科においては、一部の領域に偏らないようにした。
- 3 検査時間等を考慮し、適切な問題量とした。

2 学力検査結果の全体的な状況

(1) 学力検査受検者数等(令和5年3月6日実施分)

学力検査受検者数		
A日程学力検査受検者数	連携型中高一貫教育校に係る特別選抜受検者数	計
3,472人 (3,579人)	71人 (117人)	3,543人 (3,696人)

(注) ()内は令和4年度の受検者数である。

(2) 平均点(各教科とも50点満点)

教科	国語	社会	数学	理科	英語	総合
平均点	21.3 (22.4)	25.1 (23.4)	19.2 (16.2)	20.5 (19.9)	24.6 (20.6)	110.7 (102.5)

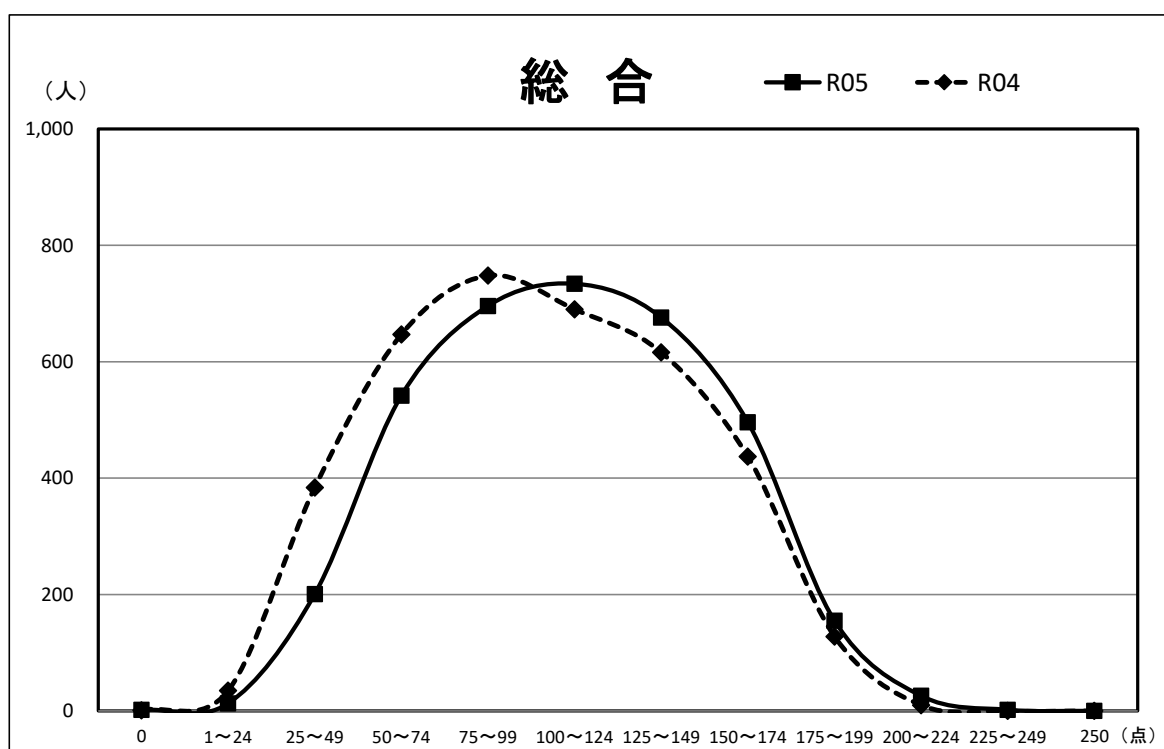
(注) ()内は令和4年度の値である。

(3)個人別総合得点度数分布表(250点満点)

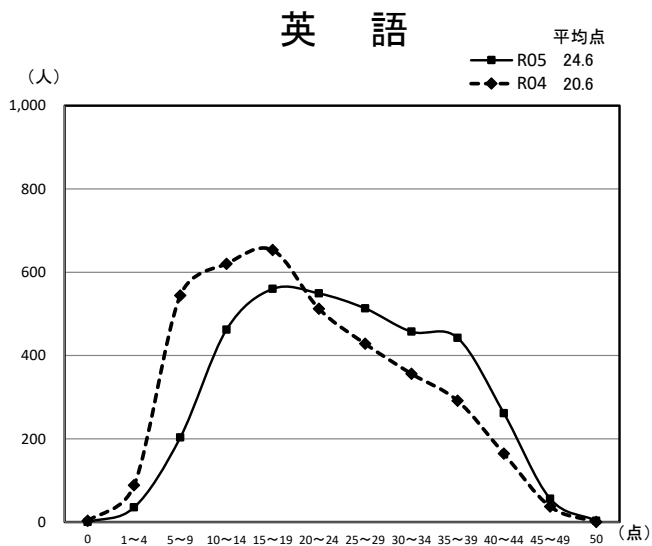
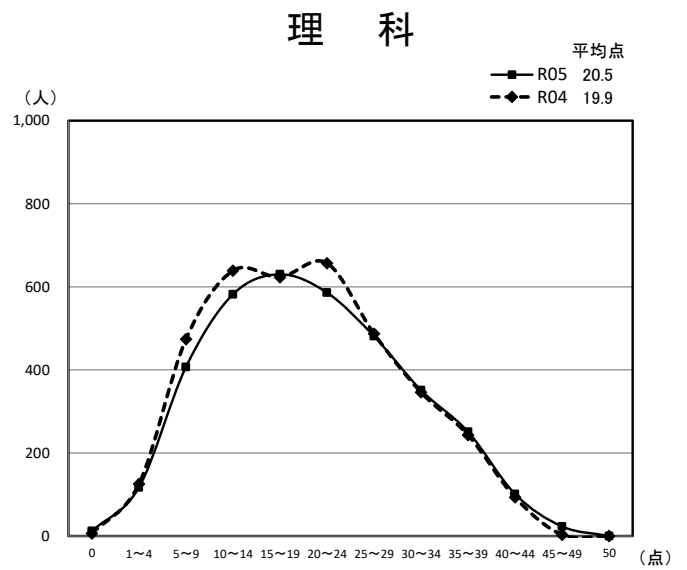
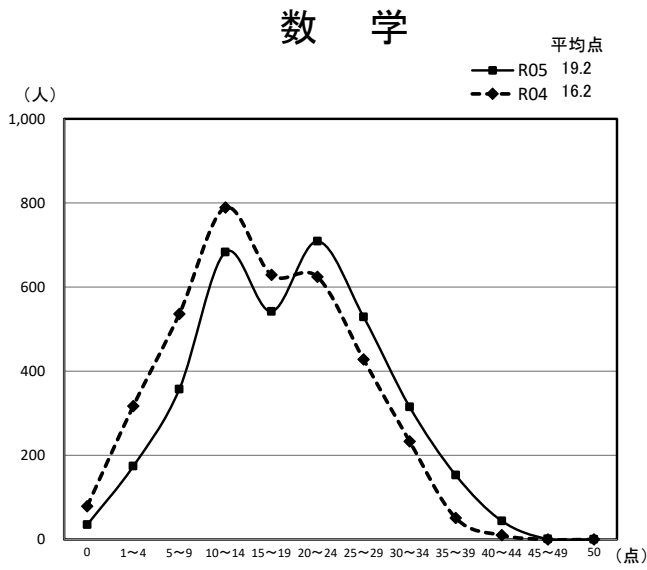
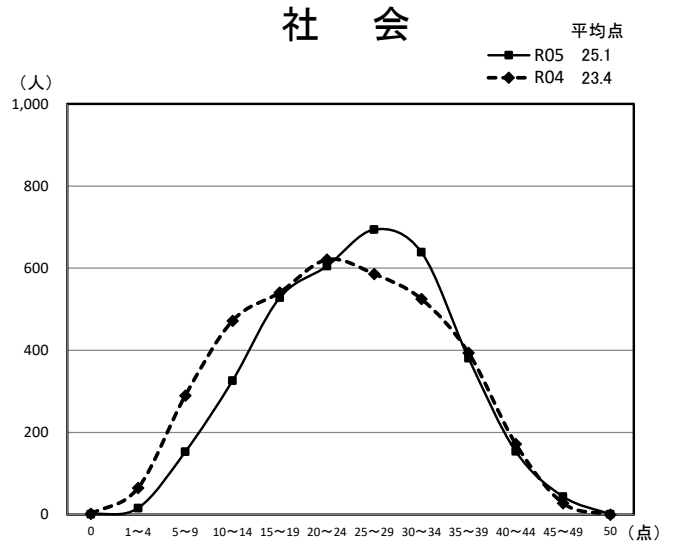
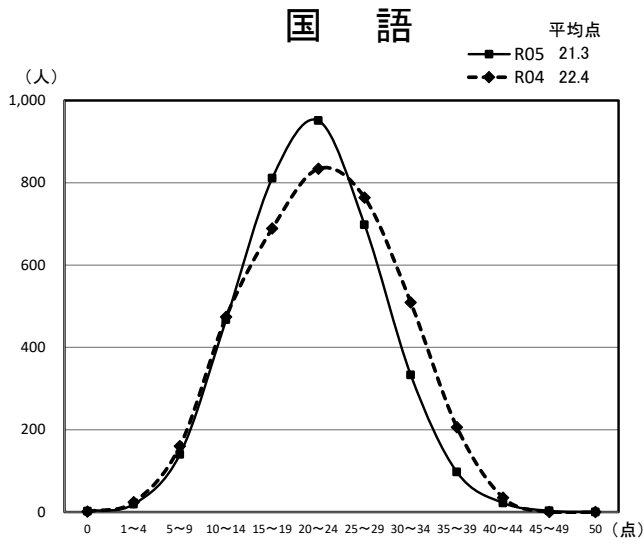
得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数
0～4	2 (1)	65～69	114 (144)	130～134	148 (122)	190～194	19 (11)
5～9	0 (0)	70～74	124 (141)	135～139	145 (124)	195～199	10 (12)
10～14	1 (1)	75～79	120 (143)	140～144	124 (110)	200～204	10 (7)
15～19	6 (11)	80～84	151 (160)	145～149	129 (120)	205～209	5 (1)
20～24	6 (23)	85～89	152 (156)	150～154	124 (102)	210～214	8 (1)
25～29	13 (33)	90～94	125 (145)	155～159	105 (104)	215～219	1 (1)
30～34	28 (46)	95～99	148 (144)	160～164	116 (82)	220～224	2 (0)
35～39	34 (84)	100～104	134 (136)	165～169	85 (93)	225～229	2 (0)
40～44	63 (95)	105～109	154 (138)	170～174	66 (56)	230～234	0 (0)
45～49	63 (126)	110～114	150 (136)	175～179	48 (58)	235～239	0 (0)
50～54	75 (99)	115～119	146 (141)	180～184	48 (36)	240～244	0 (0)
55～59	92 (119)	120～124	150 (139)	185～189	30 (11)	245～250	0 (0)
60～64	137 (144)	125～129	130 (140)				

(注) ()内は令和4年度の値である。

平均点 110.7 (昨年度102.5)



(4)教科別得点度数グラフ



(5) 過年度比較

平均点の推移(各教科とも50点満点)

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	総 合
平成31年度	22.6	25.1	18.5	25.7	27.1	119.1
令和2年度	20.4	19.4	19.0	23.3	24.7	106.8
令和3年度	22.6	24.9	21.1	22.0	23.6	114.2
令和4年度	22.4	23.4	16.2	19.9	20.6	102.5
令和5年度	21.3	25.1	19.2	20.5	24.6	110.7
前年比増減	-1.1	+1.7	+3.0	+0.6	+4.0	+8.2

満点の人数

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
平成31年度	0	5	0	1	6	12
令和2年度	0	0	0	0	1	1
令和3年度	0	1	1	1	2	5
令和4年度	0	0	0	0	0	0
令和5年度	0	1	0	0	3	4
前年比増減	±0	+1	±0	±0	+3	+4

0点の人数

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
平成31年度	2	2	56	2	1	63
令和2年度	6	3	49	0	0	58
令和3年度	1	0	23	1	0	25
令和4年度	1	2	79	6	3	91
令和5年度	2	1	35	12	0	50
前年比増減	+1	-1	-44	+6	-3	-41

250点満点で200点以上と74点以下の人数

()内は%

	200点以上	74点以下
平成31年度	51 (1.27)	699 (17.43)
令和2年度	18 (0.47)	967 (25.21)
令和3年度	19 (0.52)	705 (19.41)
令和4年度	10 (0.27)	1,067 (28.87)
令和5年度	28 (0.79)	758 (21.39)
前年比増減	+18	-309

※ 令和3年度までは平成20年度告示、令和4年度から平成29年度告示の中学校学習指導要領に基づく出題。

Ⅲ 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の教科別状況

国語

1 出題のねらい

言葉の特徴や使い方，話や文章に含まれている情報の扱い方，我が国の言語文化に関する知識及び技能と，国語で正確に理解し適切に表現する思考力・判断力・表現力等の力をみることをねらいとした。

- (1) 言葉の特徴や使い方，話や文章に含まれている情報の扱い方，我が国の言語文化については，漢字の読み書き，書写，文法の基礎的な事項，情報と情報との関係や情報の整理に関する事項，伝統的な言語文化に関する事項などについての力をみるものとした。
- (2) 「書くこと」については，文章の展開に即して内容を捉えたり，文章の内容について自分の考えをもったりしたうえで，目的や必要に応じて適切に書き表す力をみるものとした。
- (3) 「読むこと」については，文脈の中における語句の意味を的確に捉えるとともに，文章の構成や論理の展開などに注意しながら，内容を正確に理解する力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は21.3点で，昨年度より1.1点下がった。漢字の書きや情報の取り出しについては一定の力が認められるが，漢字の読みや文法の基礎的事項の習熟が十分とは言えない。また，一定の分量の文章を展開に即して内容を整理しながら正確に読み取り，条件に合わせて適切に書き表すことに課題がある。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 5	R 4	R 3	R 2	H31
平均点	21.3	22.4	22.6	20.4	22.6

(2) 正答率の推移

年 度	R 5	R 4	R 3	R 2	H31
言葉の特徴や使い方・ 漢字・書写・表現の技法	56.0	57.3	56.6	49.9	56.9
現代文	26.7	30.8	24.1	26.4	34.4
古典	31.7	51.6	44.4	44.6	44.2

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

☞① 問いの内容を確実に把握する力を身に付けさせること。【 (五) 1, (三)】

「活用のある単語」の数を答える問題ですべての単語の数を解答したり，二つの内容についてそれぞれ説明する問題で一つの内容だけを説明したりするなど，問題文を確実に読み取れていない誤答が目立った。日頃から問題文を読み飛ばさずに丁寧に読んで，問われている内容を確実に把握する力を身に付けさせたい。

☞② 目的に応じて必要な情報に着目して文章を読み，内容を解釈する力を身に付けさせること。【 (三), (一), (二), (二), (四)】

問題の条件に応じて，必要な情報に着目して解釈したり要約したりする問題の正答率が低い。現代文，古文を問わず，文章を読むときに，文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見，主張と例示を読み分けたり，登場人物の言動をおさえながら展開を把握したりするなど，複数の情報を整理しながら読むことを通して，内容を捉える力を身に付けさせたい。

☞③ 文を整える力を身に付けさせること。【 (三), (一), (二)】

文章の内容の説明や要約，自分の考えを書こうとはしているものの，適切な表現で書き表せていない解答が多い。表現した文が，言葉の対応関係が適切か，字数や形式などの条件に合っているか，伝えたい内容が文で表現できているかを生徒同士で助言し合うなどの活動を充実させ，読み手を意識して書く力を高めていきたい。

問 題		正 答	正答率	誤答率	無答率	
一	(一)	1	しゅぎよく	25.7	71.9	2.4
		2	はか(る)	14.9	71.6	13.5
	(二)	1	複雑	66.3	31.3	2.4
		2	幹	57.2	34.0	8.8
	(三)		イ	57.5	42.2	0.3
	(四)	1	ウ	86.7	13.3	0
		2	さびしさ	85.4	14.1	0.5
	(五)	1	4	10.1	89.6	0.3
		2	ア	55.7	44.3	0
		3	C	55.2	44.8	0
4		(例)誇りを持って	89.1	8.8	2.1	
5		エ	67.6	32.1	0.3	
二	(一)		ウ	28.6	71.1	0.3
	(二)		エ	54.6	45.4	0
	(三)	(例)科学は役に立つかどうかという視点ではなく、人間の知的好奇心から発するものであり、科学的な知識を持つことで、視野が広がり、人生が豊かになるという価値がある。		5.3	48.0	4.5
		部分点 42.2				
(四)		イ	58.6	40.6	0.8	
三	(一)	(例)自らの感覚に正直になるという核心をつかみ、自分自身が心から感動できなければ、素晴らしいと評価される英文学作品でも安易に同調しないという姿勢で向き合った。		7.7	53.1	10.3
		部分点 28.9				
(二)	(例)筆者は、人真似をすると一見楽だが、周囲に合わせて自分をごまかしているうちに、自信を失ってしまうと述べている。私も周囲の意見に合わせてしまう傾向があるので、自分を失わないように、まずは自分の意見をしっかり持ち、他の人の意見も聞いていきたい。		5.3	62.1	11.1	
	部分点 21.5					
四	(一)		おのこら	78.8	18.0	3.2
	(二)		ア	19.4	79.3	1.3
	(三)		ものまなび	13.5	75.9	10.6
	(四)		エ	15.1	84.1	0.8

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した377人分の答案を対象として算出した。

社会

1 出題のねらい

「地理的分野」、「歴史的分野」、「公民的分野」から均等に出題し、我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関する理解と、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明する力をみることをねらいとした。

- (1) 「地理的分野」については、地理的事象を地図や資料との関係において出題し、世界と日本の地域構成、世界や日本の様々な地域に関する自然環境や産業などからみた地域的特色などについて問うものとした。
- (2) 「歴史的分野」については、歴史的事象を年表や資料との関係において出題し、我が国の古代から近現代までの各時代の特色と移り変わり、我が国と世界の歴史上の関連などについて問うものとした。
- (3) 「公民的分野」については、現代の社会的事象を資料との関係において出題し、現代社会の特色、政治のしくみ、経済のしくみ、国際社会の諸課題などについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は25.1点で、昨年度より1.7点上がった。基本的事項については、地理的分野では一定の定着がうかがえるが、公民的分野や歴史的分野では十分とは言えない。特に、歴史的分野では、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて捉える力や、歴史的事象のつながりを捉える力に課題がある。また、全分野を通して、資料を活用して思考・判断・表現する力に課題がある。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 5	R 4	R 3	R 2	H31
平均点	25.1	23.4	24.9	19.4	25.1

- (2) 正答率の推移

年 度	R 5	R 4	R 3	R 2	H31
地理的分野	65.7	54.3	46.2	40.1	48.6
歴史的分野	31.8	49.7	43.3	34.9	42.4
公民的分野	55.2	47.4	61.6	50.9	55.4

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント(【 】は該当問題番号)

- ☞① 資料等を活用して思考・判断・表現する力を身に付けさせること。【1】3, 【3】4など

資料から読み取った情報をそのまま表現することには一定の力が見られるが、資料から読み取った情報を、すでに習得している知識と関連付けて表現したり、問いで示された条件に沿って整理して論理的に表現したりする力は十分でない。自分の考えを論理的に説明する表現力を養うためには、根拠を示しながら自分の考えを説明する活動を繰り返し実施して、その習熟を図ることが大切である。また、社会的事象の内容を教科書の記述をもとに適切に表現する活動にも取り組ませたい。

- ☞② 歴史の大きな流れや歴史的事象のつながりを捉える力を付けさせること。【2】2, 3

我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて捉える力や歴史的事象のつながりを捉える力が十分でない。我が国の歴史上の出来事に影響を与えた世界の動きについては、我が国の歴史との関連付けを図りながら指導していく必要がある。また、各時代の特色をおさえるにあたっては、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など、他の時代との共通点や相違点に着目して、多面的に考察する学習が重要である。歴史的事象についても個別に理解させるだけでなく、時間的推移や他との関係性に注意しながら理解させる必要がある。

問 題		正 答		正答率	誤答率	無答率	
1	1	(1)	㉠		61.0	39.0	0
		(2)	リアス海岸		78.5	17.0	4.5
	2	大阪府	イ		72.7	26.8	0.5
		京都府	ア		85.2	14.3	0.5
	3	(例) 観光客や釣り客に快適に楽しんでもらうことと環境保全の両立を図るため。		37.1	48.8	6.4	
部分点		7.7					
4	エ		55.7	44.3	0		
2	1	法隆寺		58.1	36.1	5.8	
	2	エ → ア → ウ → イ		15.1	84.6	0.3	
	3	ア		32.1	67.9	0	
	4	イ		38.2	61.3	0.5	
	5	使節の名称	朝鮮通信使		8.8	76.6	13.8
派遣されたとき		将軍が代わったとき。		部分点 0.8			
3	1	性別		37.1	56.3	6.6	
	2	イ		70.0	29.7	0.3	
	3	ウ		75.3	24.4	0.3	
	4	(例) 1993年と2020年を比較すると、登録弁護士が全くいないか、1人しかいない地域は減っており、大きく減っている県ほど、法テラスの事務所が多く設置されている傾向がある。		17.5	70.0	8.5	
		部分点		4.0			
5	ウ		93.3	6.4	0.3		
4	1	(1)	㉡ → ㉢ → ㉠		57.3	42.7	0
		(2)	B		50.4	49.3	0.3
	2	(例) インドやタイでは、国内の乗用車生産台数の割合の多くを日本系企業が占めている。		67.1	23.1	4.2	
		部分点		5.6			
	3	エ		85.1	14.9	0	
4	モノカルチャー経済		73.5	19.6	6.9		
5	1	ア		30.2	69.5	0.3	
	2	ウ		30.2	69.5	0.3	
	3	(例) ワシントン会議で、海軍の主力艦の保有を制限することが取り決められ、軍備縮小を行ったため。		8.8	68.6	21.5	
		部分点		1.1			
	4	二・二六事件		41.1	55.4	3.5	
5	エ		56.3	43.2	0.5		
6	1	持続可能な開発目標		82.8	13.8	3.4	
	2	イ		67.9	31.3	0.8	
	3	(1)	資本		30.2	65.0	4.8
		(2)	(例) 歳出が税収を上回っているときに、税収の不足を補うため。		22.8	67.9	6.4
部分点		2.9					

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した377人分の答案を対象として算出した。

数学

1 出題のねらい

「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」から出題し、数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などの理解と、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能、数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察したり、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したりする力をみることをねらいとした。

- (1) 「数と式」では、数の概念についての理解の程度、文字を用いた式に表現したり、文字を用いた式の計算や処理をしたりする力をみるものとした。
- (2) 「図形」では、図形の内容、図形の性質や関係についての理解の程度、数学的な推論に基づいて考察し表現する力をみるものとした。
- (3) 「関数」では、グラフの特徴についての理解の程度、関数を用いて事象を捉え表現する力、関数と図形を関連付けて考察する力をみるものとした。
- (4) 「データの活用」では、目的に応じて収集した資料を処理し、その資料の傾向を読み取り判断する力、具体的な事柄について起こり得る場合を順序よく整理して正しく数え上げ、不確定な事象の確率を求める力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は19.2点で、昨年度より3.0点上がった。基礎的・基本的事項については一定の力が付いていると思われるが、問題文を理解して、文字を用いて立式することや、文字を用いた式の変形や処理をする力は十分とは言えない。また、「図形」、「関数」の領域において、知識・技能を活用する問題や、思考・判断・表現する力を問う問題に課題がある。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

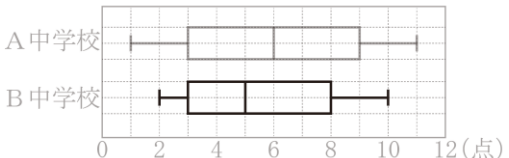
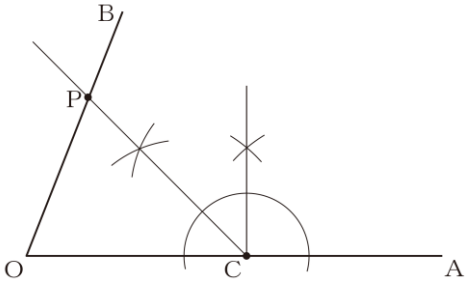
年 度	R 5	R 4	R 3	R 2	H31
平均点	19.2	16.2	21.1	19.0	18.5

- (2) 正答率の推移

年 度	R 5	R 4	R 3	R 2	H31
数と式	50.3	44.3	66.5	54.3	58.3
図 形	23.0	13.3	20.5	13.5	14.5
関 数	29.9	33.1	31.1	38.5	42.6
データの活用	48.7	35.6	39.5	36.8	37.8

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

- ☞① 与えられた式の変形や処理の仕方について、きまりを定着させること。【1】(1), (4)など
式の変形、処理の仕方について、きまりを正しく理解できていないと思われる解答が少なくない。計算順序や分配法則、また、根号の中の数はできるだけ小さい自然数にするなど、基本的なきまりを確実に習得させておきたい。
- ☞② 文字を用いて立式し、目的に応じて式を変形できるようにさせること。【1】(2), 【2】
問題文を理解して、文字を用いて立式し、その立式したものを目的に応じて変形する問題の正答率が低い。文字を用いて立式することが苦手な生徒には、文字ではなく具体的な数で立式できるようになってから、数を文字に置き換え立式させる。その後、目的に応じて式を変形できるように、段階的に指導していくことが大切である。
- ☞③ 自分の考えを論理立てて記述できるようにさせること。【6】(1)
証明問題では、与えられた条件から式のみを羅列し、それらの式が成り立つ根拠が示されていないものや、不十分なものが多く見られた。全体の見通しをもたせうえで、根拠に基づいて論理立てて説明し合う場面や記述したものを見合う場面を設けることが必要である。

問題	正 答		正答率	誤答率	無答率	
1	(1)	①	8	93.9	6.1	0
		②	$\frac{7x+y}{6}$	81.9	17.8	0.3
		③	$\frac{6b^2}{a}$	53.9	43.2	2.9
		④	$3\sqrt{3}$	40.3	48.3	11.4
	(2)	$b = -\frac{23}{7}a + 60$		17.0	67.3	15.7
	(3)	ア, エ		7.7	92.3	0
	(4)	$2b(2a+3)(2a-3)$		32.4	49.8	17.8
	(5)	$a=2$		35.0	43.8	21.2
	(6)	辺CF, 辺DF, 辺EF		64.7	34.0	1.3
	(7)			57.0	40.1	2.4
部分点 0.5						
(8)	(例) 		40.3	47.0	12.2	
	部分点 0.5					
2	(1)	ア	$14-x$	74.5	23.6	1.9
		イ	$18-x$			
	(2)	ウ	$14x$	58.1	31.8	10.1
		エ	$18x$			
	(3)	X	$x^2-32x+60$	30.5	46.2	23.3
		Y	(例) $x^2-32x+60=0$ $(x-2)(x-30)=0$ $x=2, 30$ $0 < x < 14$ であるから $x=30$ は問題に適していない。 $x=2$ は問題に適している。 よって、道幅は 2m にすればよい。	20.4	23.6	46.7
部分点 9.3						

(次のページに続く)

問 題	正 答		正答率	誤答率	無答率	
3	(1)	$\frac{5}{36}$	56.5	39.3	4.2	
	(2)	$\frac{7}{12}$	32.6	55.5	11.9	
4	(1)	イ	55.7	41.9	2.4	
	(2)	①	$y = 9$	8.5	60.5	31.0
		②	$a < c < b$	12.7	72.7	14.6
5	(1)	(3, -3)	78.5	17.0	4.5	
	(2)	36	14.1	43.5	42.4	
	(3)	252π	4.5	48.0	47.5	
6	(1)	<p>【証明】(例)</p> <p>△DFEと△EHGにおいて 四角形ABCDは長方形であるから ∠DEF=∠EGH……………① AD//BCより, 錯角が等しいから ∠ADE=∠CED……………② DFで折り返しているから ∠FDE=$\frac{1}{2}$∠ADE……………③ EHで折り返しているから ∠HEG=$\frac{1}{2}$∠CED……………④ ②, ③, ④より ∠FDE=∠HEG……………⑤ ①, ⑤より 2組の角がそれぞれ等しい。 したがって △DFE∞△EHG</p>	1.9	38.2	40.3	
	(2)	$\frac{25}{4}$ 倍	0.5	60.0		部分点 19.6

※ 正答率等の数値については, 学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した377人分の答案を対象として算出した。

理科

1 出題のねらい

「第1分野」、「第2分野」から均等に出題し、自然の事物・現象についての理解と、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能、観察・実験などを行い、科学的に探究する力をみることをねらいとした。

- (1) 「第1分野」については、音の性質、身の回りの物質とその性質、水中の物体に働く力、化学変化及び化学変化と熱などについて問うものとした。
- (2) 「第2分野」については、葉・茎・根のつくりと働き、霧や雲の発生、生物の殖え方及び遺伝の規則性と遺伝子、火山活動と火成岩などについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は20.5点で、昨年度より0.6点上がった。第1分野においては、基礎・基本的な科学用語の理解及び観察・実験の技能の習得に一定の定着がうかがえるが、第2分野については十分とは言えない事項がある。また、探究活動の流れに沿って科学的検証方法を立案したり、根拠をもって実験結果を予想したり、実験結果を解釈・表現したりする力には、両分野ともに弱さが見られる。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 5	R 4	R 3	R 2	H31
平均点	20.5	19.9	22.0	23.3	25.7

(2) 正答率の推移

年 度	R 5	R 4	R 3	R 2	H31
第1分野	48.1	30.2	44.8	37.0	49.0
第2分野	39.8	47.9	50.9	61.4	55.3

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

- ① 思考・判断・表現の基本となる知識を確実に身に付けさせること。【14(1), 23, 44, 54(1)】
基本的な知識・技能の領域において、十分に定着していない事項が見られる。知識・技能は、思考・判断・表現する力の基盤となる。単純な暗記にとどめることなく、過去に習得した知識・技能と結びつけ、未知の課題を解決するための道具として活用できるようにさせたい。その第一歩として、基本的な科学用語はスムーズかつ正確にアウトプットできるようにさせる必要がある。
- ② 題意を的確に理解し、グラフや数値で適切に表現できるようにさせること。【22, 4, 46など】
グラフや数値によって解答する問題で、与えられた情報や問題文の指示を正しく理解せず作図や計算をしたと思われる誤答が多い。求められている情報は何か、与えられたデータをどのように処理・変換すれば、求められた数値を得たりグラフで表現したりすることができるのか、生徒に試行錯誤させながら、思考・判断する能力を体験的に身に付けさせる必要がある。
- ③ 操作の目的や科学的事象の原因を、言葉で適切に表現できるようにさせること。【25, 32など】
実験操作を行う目的や、科学事象がおこる原因を言葉で説明する問題で、適切に表現できていない誤答が目立つ。「対話的な学び」によって「話す」ことで表現する機会は増えたものの、「書く」経験はあまり増えていないことが一因として考えられる。「書く」機会を増やし、主語・目的語・述語を適切に組み合わせ、言いたいことが確実に伝わる文を書く能力を身に付けさせたい。
- ④ 科学的な探究の過程を体験的に習得させること。【54(2)】
理科における探究の過程では、立案した仮説を検証するための適切な実験計画の作成、特に、仮説を検証するために実験条件をどのように制御するかが重要である。理科における従来型の生徒実験では、示された手順に沿って操作を行い、得られた結果に基づいて考察することが重視されたが、生徒自身が仮説を立案し実験計画を立てる過程にも力点を置いた指導を心がけたい。

問 題		正 答				正答率	誤答率	無答率			
1	1	(1)	振動				88.3	10.9	0.8		
		(2)	ウ				69.2	30.8	0		
		(3)	エ				70.6	29.4	0		
	2	(1)	状態変化				67.9	29.2	2.9		
		(2)	あ	低くなり		い	下がる		34.5	65.0	0.5
	3	(1)	デンプン	C	白砂糖	B	食塩	A	48.5	51.2	0.3
		(2)	G				43.8	55.9	0.3		
	4	(1)	名称	道管			30.8	63.6	5.6		
			はたらき	(例) 根から吸収した水や養分を通すはたらき。			27.3	62.9	9.8		
		(2)	ア				58.4	41.6	0		
2	1	ウ				58.1	41.9	0			
	2	<p>物体Aにはたらく浮力の大きさ [N]</p> <p>物体Aを沈めた深さ [cm]</p>				40.3	56.5	3.2			
	3	ア				44.6	55.4	0			
	4	20 %				16.2	74.8	9.0			
	5	記号	イ			11.1	87.0	1.9			
理由	(例) 物体Eは物体Aより密度が大きいので、体積は物体Eの方が小さく、物体Eにはたらく浮力は物体Aより小さいから。										
3	1	減数分裂				67.6	27.6	4.8			
	2	(例) 花粉の乾燥を防ぐため。				35.3	58.3	6.4			
	3	(1)	精細胞				45.7	43.2	11.1		
		(2)	ア, イ				23.3	76.4	0.3		
		(3)	Aa, aa				41.9	53.9	4.2		
	4	(例) 他個体から自分がもっていない遺伝子を受け取って、遺伝子の組み合わせが多様な子を生ま出すことができる。				6.6	69.8	23.6			

問 題	正 答				正答率	誤答率	無答率		
4	1	硫化鉄				68.7	28.6	2.7	
	2	イ				54.4	45.6	0	
	3	(例) 気体を手のひらで鼻にあおぎよせるようにして、気体のにおいを直接かがないようにする。				86.5	10.1	3.4	
	4	H ₂				22.8	66.9	10.3	
	5	エ				64.0	35.5	0.5	
	6	9.9 g				14.9	77.7	7.4	
5	1	ア				59.4	40.1	0.5	
	2	火山	A	理由	エ	47.5	52.2	0.3	
	3	P	斑晶			40.8	49.7	9.5	
		Q	石基			45.1	42.4	12.5	
	4	(1)	火山ガス				27.6	57.8	14.6
		(2)	実験	(例) ぬるま湯と洗濯のりの体積の合計は100mLのままで、ぬるま湯を少なく洗濯のりを多くして、マグマのモデルの粘りけを強くする。			17.0	58.9	24.1
	結果	(例) 噴き出たマグマのモデルが図5より盛り上がった形をつくる。							

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した377人分の答案を対象として算出した。

英語

1 出題のねらい

英語の特徴やきまりに関する知識及び技能と、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の3領域における、情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりする思考力・判断力・表現力等の力をみることをねらいとした。

- (1) 「聞くこと」については、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ったり話の概要を捉えたりする力、相手からの質問に答えたりする力などをみるものとした。
- (2) 「読むこと」については、日常的な話題について、書かれたものから必要な情報を読み取ったり文章の概要を捉えたりする力、社会的な話題について、文章の要点を捉える力などをみるものとした。
- (3) 「書くこと」については、正しい語順で文を構成する力、場面や状況に応じて適切な語句や文を書く力、日常的な話題について自分の考えや気持ちなどを伝えたり、社会的な話題に関して考えたこととその理由を書いたりする力などをみるものとした。

2 結果の概要

平均点は 24.6 点で、昨年度より 4.0 点上がった。まとまりのある文章の概要や要点を捉える力は概ね身に付いている。文法事項の定着に偏りがみられ、聞いたり読んだりした身近な話題や社会的な問題に対して自分の考えを英語で書く問題では、自分の考えを伝えようとしているものの、正確に表現することができておらず、基本的な文法事項の定着に課題がみられる。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 5	R 4	R 3	R 2	H31
平均点	24.6	20.6	23.6	24.7	27.1

- (2) 正答率の推移

年 度		R 5	R 4	R 3	R 2	H31
理解の能力	聞くこと	58.2	53.8	57.6	67.6	65.4
	読むこと	58.0	44.3	52.6	59.8	60.5
表現の能力	書くこと	29.3	23.6	27.4	22.5	33.3

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

- ☞① 基本的な語や文法事項を理解して、正しく文を書く力を身に付けさせること。【2】2(1)など

文脈や場面から状況を判断し、基本的な文法事項の理解に基づいて、適切に表現する問題の正答率が低い。円滑なコミュニケーションを図るためには、語彙を増やし文法事項を正しく理解する必要がある。語彙や文法事項の習得の必要性や有用性を実感させたいうでその知識を活用させたり、繰り返し使用することで規則性や構造について気づきを促したりするなど、言語活動と効果的に関連付けて指導することが必要である。それと同時に、表出したものが正確かどうかの見取りとその後の指導も非常に重要である。

- ☞② 技能を統合的に活用して適切に表現する力を身に付けさせること。【1】D, 【4】2(2)

聞いたり読んだりして把握した内容についての問いに、適切に応じることに課題がある。聞き取ったり読み取ったりした英語の質問を理解したうで、自分の考えを英語で表現する一連の流れを円滑に進められずに、質問の一部にしか応じられていない解答がある。技能統合型の言語活動を充実させ考えや意見を伝え合ったり、様々な話題に触れさせながら既習の表現を適切に運用したりする活動を通じた指導が更に求められる。

問 題		正 答		正答率	誤答率	無答率
1	A	No. 1	ウ	54.6	45.4	0
		No. 2	エ	52.8	47.2	0
		No. 3	ア	59.7	40.3	0
	B	No. 1	エ	90.2	9.8	0
		No. 2	イ	37.4	62.3	0.3
	C	No. 1	ウ	66.3	33.7	0
		No. 2	イ	30.2	69.8	0
		No. 3	イ	74.3	25.7	0
	D	(例) I like spring the best because we can see beautiful flowers in many places.		18.8	22.0	4.2
	部分点		55.0			
2	1	(1)	kind	63.5	29.4	6.6
		部分点		0.5		
	(2)	popular	43.2	49.3	7.2	
		部分点		0.3		
	2	(1)	to learn how to cook	31.8	66.1	0.8
		部分点		1.3		
	(2)	wish I had P. E. class every	58.4	33.7	0.5	
		部分点		7.4		
	3	(1)	ア	49.3	50.4	0.3
		(2)	イ	50.2	49.3	0.5
4		エ	44.6	54.9	0.5	
3	1	(1)	ア	63.9	35.8	0.3
		(2)	ウ	40.6	59.1	0.3
	2	(1)	エ	32.4	67.6	0
		(2)	ウ	53.1	46.9	0
4	1	(1)	イ	79.5	20.2	0.3
		(2)	ウ	85.4	14.3	0.3
		(3)	ア	80.9	18.8	0.3
	(1)	A	(例) How many students answered the question?	11.1	57.6	18.0
		部分点		13.3		
	B	(例) What did you find?	5.8	58.7	26.0	
		部分点		9.5		
(2)	(例) I usually use social media because I can receive the news of the world quickly on my mobile phone. I can also watch videos about the news.		2.1	13.0	15.1	
部分点		69.8				

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した377人分の答案を対象として算出した。

高知県教育委員会事務局高等学校課

高知市丸ノ内1-7-52

電話 (088)821-4907

FAX (088)821-4547